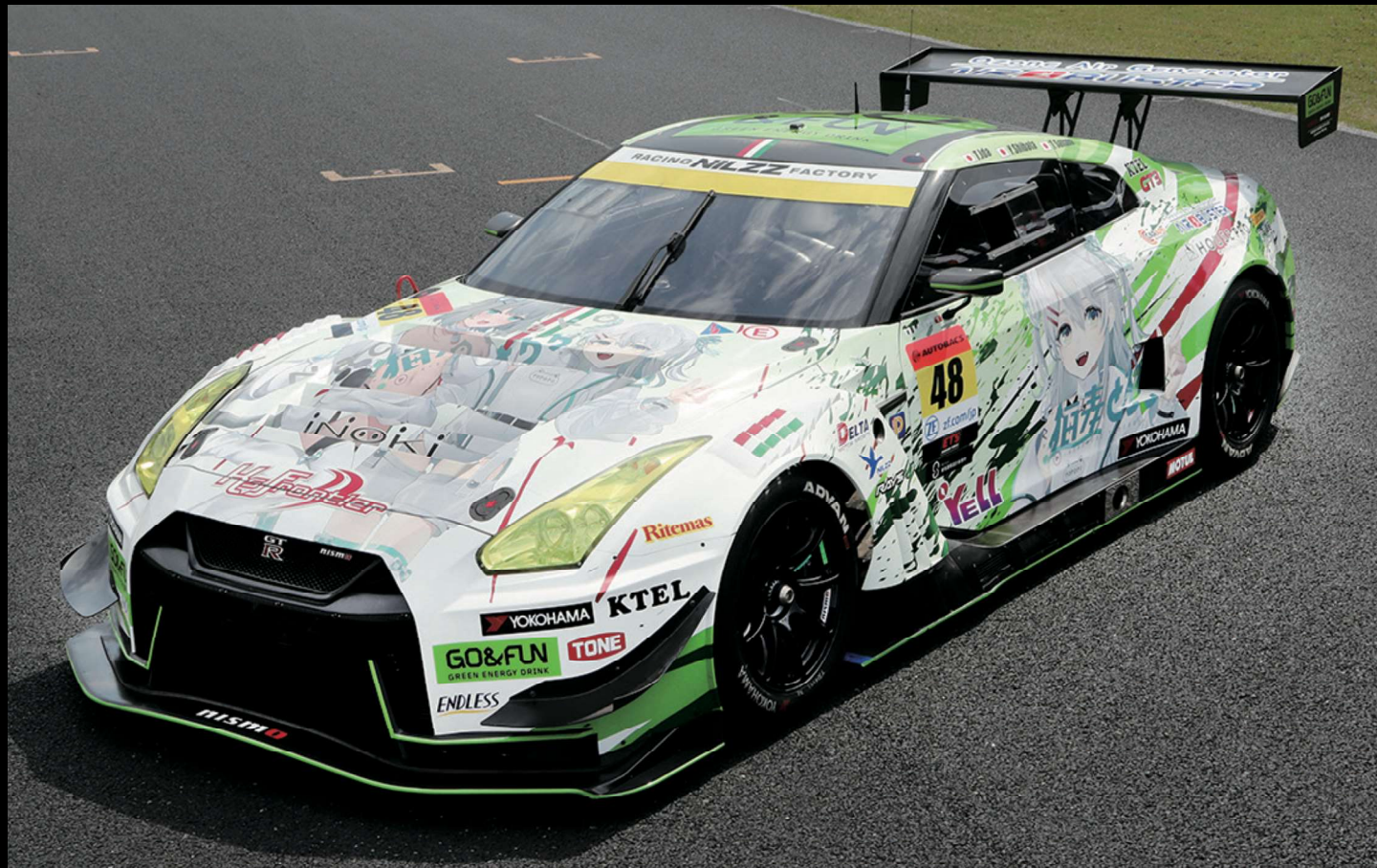




NILZZ

RACING FACTORY

OKAYAMA GT 300KM RACE

2024 AUTOBACS SUPER GT Round.1 RACE REPORT

カテゴリー : SUPER GT SERIES 2024 GT300 クラス
 エントラント : NILZZ Racing
 カーナンバー : 48
 マシン名称 : 脱毛ケーズフロンティア GO&FUN 猫猫 GT-R
 ドライバー : 井田太陽 / 柴田優作

公式練習 : 1'28.811 (GT300 クラス 23 位)
 公式予選 Q1 : 1'28.036 (GT300 クラス A 組 10 位)
 公式予選 Q2 : 1'29.522 (GT300 クラス Gr.2 8 位)
 公式予選 (合算) : 2'57.558 (GT300 クラス 24 位)

決勝 : GT300 クラス 24 位 (72 周)

開催地 : 岡山国際サーキット (岡山県)
 開催日 : 2024.4.13~2024.4.14
 天候 : 晴れ (4.13) 晴れ (4.14)
 イベント動員数 : 8,500 人 (4.13) / 15,500 人 (4.14)



Nachoneko



株式会社
曾我建築設計事務所



アーツ銀座
クリニック





2024 年 AUTOBACS SUPER GT シリーズ第 1 戦” OKAYAMA GT 300KM RACE” が 4 月 13 日から 14 日にかけて岡山県美作市の岡山国際サーキットで行われた。

NILZZ Racing は今期、大幅な体制変更を実施。第 1 ドライバーは昨年同様井田太陽が務めるが、第 2 ドライバーに柴田優作、第 3 ドライバーに眞田拓海を起用することとなった。

そしてマシンカラーリングも刷新。人気 V チューバーの猫麦とろろ、nachoneko とのコラボレーションを実施し、ボディにキャラクターが描かれた大胆なものとなった。

これに伴い、車名を” 脱毛ケースフロンティア GO&FUN 猫猫 GT-R” に変更したことで、関係者やファンの間で大きな話題となった。

4 月 13 日 (土) 公式練習

快晴に恵まれた岡山国際サーキット。今季最初のセッションとして 9 時 30 分から公式練習が行われた。

まずは柴田がコースイン。マシンチェックの後、連続周回を行う。

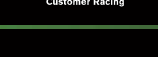
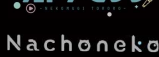
その後、井田も連続走行を行い、セッション後半は主にマシンのセット変更を中心にセッションを進めていった。

そしてセッション終盤、GT300 クラス専有走行において、柴田が予選シミュレーションを行い、最後の計測で 1 分 28 秒 811 の自己ベストタイムを記録し、公式練習を終えた。

4 月 13 日 (土) 公式予選

今季より公式予選のフォーマットが 2 名のドライバーによる合算タイムで決勝スターティンググリッドを決定するよう変更された。

NILZZ Racing は今回予選 Q1A 組に振り分けられ、柴田が出走した。





ウォームアップを行い、計測4周目より本格的にアタックを開始。

周回ごとに自己ベストを更新する柴田、セッション終盤までQ2 グループ1 進出を争うも、計測6周目の1分28秒036がベストタイムとなり、Q2 セッションはグループ2 での出走に割り振られることとなった。

Q2 グループ2 では井田が出走。

規則によりQ1 で使用したタイヤを使用しなければならないため、井田は3周目よりアタックを開始した。

計測4周目、1分29秒522を記録。アタックを継続するも最後の計測でタイムを短縮することができず。

合算タイムの結果、2分57秒558が予選タイムとして記録され、NILZZ Racing の開幕戦は24番手からのスタートが決定した。

4月14日(日) 決勝

予選日に引き続き晴天となった岡山国際サーキット。

強い陽射しが降り注ぎ、4月とは思えないほどのコンディションでの決勝となった。

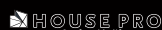
NILZZ Racing のスタートドライバーは柴田。

スタート後から追い上げを謀る柴田、オープニングラップのアトゥッドカーブ侵入でAMGを抜くべくアクションを起こすも接触してしまい。GT-Rは左フロント部にダメージを負ってしまう。

このアクシデントとほぼ同じタイミングでリボルバー〜バイパーの間でクラッシュ車両がコース上で停止したため、レースはセーフティーカー(SC)が導入。

4周目、隊列走行は続いているが、チームは柴田をピットに呼び込み、ピットレーン上で応急処置が行われた。

コースに復帰する際、ピット出口の赤信号により、SC先導の隊列が通過するまで待たなければならず、コースに復帰した柴田は周回遅れとなってしまった





その後周回を続けた柴田。可能な限りロングスティントを続ける作戦だったが、予想よりも早くタイヤのグリップダウンが出てしまい、40 周目にピットイン。

タイヤ交換と給油、ドライバー交代を行いコースに復帰。

レースの残り周回を井田に託した。

ピットアウト直後は最後尾まで順位を落とした井田は 23 位まで順位を上げ、チェッカーを受けたが、レース終盤に導入された FCY の際の減速が不十分であったと裁定が下り、レース結果に 40 秒が加算、最終結果は GT300 クラス 24 位で開幕戦を終えた。

新体制初戦ということもあって、好成績を期待していましたが、思うようには行かず、非常に厳しいレースでした。

次戦富士大会では良い結果に繋がられるよう頑張っていきたいと思います。

ご支援、ご声援いただきました皆様、誠にありがとうございました。

引き続きよろしくお願いいたします。

